

産業構造審議会産業技術環境分科会資源循環経済小委員会  
容器包装リサイクルワーキンググループ（第1回）

議事要旨

日時：令和5年9月26日（火曜日）14時30分～15時30分

場所：オンライン開催

**出席者**

足立委員、大石委員、大角委員、久保委員代理、小野田委員、金澤委員、川村委員、小山委員、斉藤委員、笹尾委員、佐藤委員、杉山委員、高橋委員、田中委員、玉谷委員、西尾委員、長谷川委員、舟竹委員、保谷委員、町野委員、端山委員代理、山崎委員

**議題**

1. 座長互選
2. 容器包装リサイクル法の義務量算定に係る量、比率等について

**議事概要**

■座長互選

出席委員の互選により、斉藤委員が選任された。

■容器包装リサイクル法の義務量算定に係る量、比率等について

前回の委員会での指摘事項を精査し、対応方針を提示した。

- 再商品化義務総量を求める際、これまでは紙製容器包装のみ分別収集見込総量から市町村の独自処理予定量を差し引いていたが、他の容器包装についても、分別収集見込総量から市町村の独自処理予定量を差し引いた値に特定事業者責任比率を乗じた値と、再商品化見込量に特定事業者責任比率を乗じた値を比較し、いずれか少ない量を基礎として再商品化義務総量を算定する。

■容器包装リサイクル法の義務量算定に係る量、比率等について

今後の検討課題として、以下のコメントがあった。

- 独自処理予定量を控除した後の数値であっても、ガラスびんのその他の色について、自主算定方式では全業種、簡易算定方式でも半数の3業種が算定係数は1を超える。この要因としては二点考えられる。一点目は、再商品化見込量が過大となっているという点であり、その算定に係る調査方法の検討を要望する。二点目は、分別収集見込総量が過大となっている点であり、その要因として考えられる自治体における他の色への無色・茶色の混入について、状況把握と適切な色選別及び精度の向上、ただ乗り事業者に

対する所轄官庁からの指導を要望する。

- 容器包装利用・製造等実態調査について、アンケート発送先の抽出方法及び拡大推計は、数字に一定の影響を及ぼすため、より一層、慎重な取扱いを要望する。

**問合せ先：**

経済産業省産業技術環境局資源循環経済課

電話：03-3501-4978

F A X：03-3501-9489